

令和6年11月27日

futbol y vida

Poco a poco ...
boco y boco ...



順位決定戦がスタート VS かえつ有明!!
51期生の高校サッカーラスト3ゲーム!!

51期生 ラスト3ゲームは地区トップリーグ順位決定戦!!

三戦全勝で“有終の美”を飾り、高校サッカー節目を迎える!!

早いもので、51期生の高校サッカーは、地区トップリーグ順位決定戦のラスト3ゲームとなりました。リーグ戦はレベルが遥かに違うものの、プレミアリーグ⇒関東プリンス⇒Tリーグ⇒地区トップリーグと繋がっています。上位リーグの結果いかんでは、今年度の片倉高校の成績である地区トップリーグ8位は「暫定的に残留」と言わざるを得ません。地区トップリーグ他グループの同順位である、かえつ有明・国士舘・國學院久我山高校の四チームとリーグ戦を行い、その中で上位となり残留を確定させたいものです。



⚽地区トップリーグ順位決定戦 VS かえつ有明⚽

順位決定戦初戦 VS かえつ有明は、快勝で初陣を勝利で飾る!!

11月23日(土)、選手権三回戦で大成高校に敗れてから一か月ぶりの公式戦となる地区トップリーグ順位決定戦が、かえつ有明高校グラウンド(江東区)で行われました。13年前には、創部6年目でインターハイに東京都代表として出場し、最高位はT2リーグにも所属するなど、中高一貫校のメリットを生かし、六年間人工芝のグラウンドでスキルを高めて結果を出すなど、東京都の高校サッカー界に新旋風を巻き起こし一時代を築いたチームです。現在は、学校の経営方針により部活より進学指導に重点を置くように舵を切ったからなのか、地区トップリーグに所属しています。今回、最後のリーグ戦まで三年生が残るなどチーム(選手たち)のサッカーへの姿勢は伝わってきます。お互い三年生同士の闘いに拮抗した激しいゲームの期待を感じました。

会場のかえつ有明グラウンドは、縦と横がそれぞれ5mずつ短く、普段広いグラウンドで活動している片倉高校の子どもたちには、非常に狭く感じたと思います。いつもは通るパスが相手に引っ掛かったり、味方にぶつけてしまったり、サイドへのパスがラインを割ってしまったり…とミスが目立ち、このグラウンドのサイズ感に順応するには少し手古摺りました。決していい出来ではありませんでしたが、この日は、歳森・横溝(3年)、小川(1年)のアタッカー陣が要所々々でゴールを決めてリードを広げ精神的に優位に立ちます。守っては、小沢・狩集・北浦(3年)が相手の攻撃を完封して、大事な地区トップリーグ初戦を快勝で白星を飾ることができました。

また、この日、関東プリンスに所属する國學院久我山高校が前橋育英高校に勝利して、T1リーグへの降格は無くなったために、100%とは言い切れませんが、来年度の地区トップリーグ残留が濃厚となりました。しかし、51期生にとっての高校サッカー公式戦は残り2ゲーム。この三年間の思いを全てぶつけ全勝で節目を迎えたいものです。まずは、期末考査明けの12月7日(土)の国士舘高校戦に向けて引き続き準備をしていきたいと思います。

103 回 全国高校サッカー選手権大会東京代表は、帝京高校と堀越高校に決定!!



⚽103 回 高校サッカー選手権東京都代表、左：帝京高校(35 回目) 右：堀越高校(6 回目)⚽

11 月 16 日（土）、高校サッカー選手権大会東京都予選決勝が駒沢競技場で行われ、第一試合は帝京高校が國學院久我山高校を **2-1**、第二試合では堀越高校が実践学園を延長の末 **3-2** で勝利し東京都代表に輝きました。どちらのゲームも東京都代表を決めるに値する好ゲームでした。15 年ぶり **35 回目** の出場となる帝京高校は**歴代優勝回数 6 回**でランキングトップの名門校、二年連続で**6 回目**の出場となる堀越高校は、昨年選手権で初の全国ベスト4に輝きました。両チームの全国での活躍を東京のサッカー仲間は応援しています。

同じ舞台に上がって三年目。いつか **Best8**の壁を乗り越える!!

東京の多くの高校サッカー少年たちが、まずは選手権二次トーナメントの舞台に立つ（ガイドブックにチーム名と自分の名前を刻む）ことを目標に、日々厳しいトレーニングを行っています。片倉高校サッカー部は、**49 期生**から**三年連続**で選手権二次トーナメントに進出。やっと、強豪校が待ち受ける舞台に上がることができました。そして、この間、**ベスト8一回、ベスト16二回**とサッカー部の歴史を大きく塗り替え、憧れの西が丘サッカー場のピッチまであと一步のところまで近づいていますが、新参者には必ずこの **Best8の壁**が大きく立ちはだかります。前々任校、前任校でも超えることができない凄く高い壁でした。もちろん結果が全てではなく、目標に向かって厳しいトレーニングの日々を過ごしたそのプロセスこそが大切であり、三年間の尊い経験がエネルギーとして蓄積されてこの先の人生に必ず役立つと信じています。

近頃はありがたいことに、片倉高校サッカー部について取り上げてくれるサッカー仲間や SNS の記事が増えました。その中でよく使われる表現が「**普通の公立高校、普通の子どもたちの集団**」です。これは誉め言葉として捉えています。この“**普通の集団**”が強豪校と真っ向勝負して結果を導くためには膨大な時間が必要であり、“**K's football style**”という他チームにはない拘りを持って取り組まなくてはなりません。何事も物事を習得するためには必ず困難・苦難と立ち向かいます。しかし、最近の風潮なのか、仕事の効率化・合理化を図り短時間で結果を求められることが多くなったように感じます。「部活動」は教育活動の一貫であり、古今東西「**人を作る**」ためには多くの時間が掛かります。サッカー部はトレーニング時間をたっぷり使い五年掛かってここまで辿り着きました。いつかこの壁を乗り越えて西が丘のピッチに立つためには、今まで以上に質の高いトレーニングを取り入れ、量（時間）を増やさなくてはなりません。**“西が丘の夢”**を諦めずに思い、追い続けたいと思います。引き続き、サポート宜しくお願いします。



＜厳しい道を選択したからこそ遅く成長する＞